

十周年の記念に

私共の日本語日本文化学科が創設されて以来十年の間に、世界やわが国の状況は大きく変化した。とりわけ、政治や経済の在り方の負の影響を受けて、文化や教育の分野の変化が著しく、いわゆるバブル期の〈知〉の先端とは比ぶべくもない。文化や教育がこの状況の中で、精選の方向に進む面もないわけではないが、軽薄な経済効率優先に流されて、強靱な精神力や柔軟性を培うカリキュラムや教授法が後退している面がある。現に求められているのは、〈未来に〉本当の勇気をもって進める〈構造化された価値観〉の確立を支えるシステムである。だが、この国を真に導く知性はいまは影を潜めているかに見える。しかし、地球上のすべての人々や生き物が〈共に生きる〉ための方法や思想が問われている、という事実が変わらない。

願わくば、ささやかではあるが、ここに提出された論考が何かの発展に寄与すれば幸いではある。このたび、専任の他に非常勤の方々にもご寄稿願って、いつもより多彩な幅を持つことができた僥倖を謝したい。

日本語日本文化学科長 影山恒男